

都市計画マスタープラン地域別構想

1 4 地域の動向（現況と課題）

(1) 年齢別人口

- ・平成 30 年の年少人口（0～14 歳）の割合をみると、本市の平均は 13.2% であり、平均を上回るの
は梓川 15.8%、南部 14.1% などである。平均を下回るのは奈川 5.6%、四賀 6.8% である。
- ・老年人口（65 歳以上）の割合をみると、本市の平均は 27.6% であり、平均を上回るのは奈川 49.2%、
四賀 42.3% などである。平均を下回るのは中央南部 23.3%、南部 24.3% などである。

表 年齢別人口・割合

地域	年齢別人口				年齢別人口割合		
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計	0～14歳	15～64歳	65歳以上
01 中央部	1,362	7,797	4,628	13,787	9.9%	56.6%	33.6%
02 中央北部	2,866	13,255	6,120	22,241	12.9%	59.6%	27.5%
03 東山北部	2,812	12,530	5,976	21,318	13.2%	58.8%	28.0%
04 東山中部	1,877	7,956	4,169	14,002	13.4%	56.8%	29.8%
05 東山南部	591	3,225	1,939	5,755	10.3%	56.0%	33.7%
06 南部	5,221	22,859	9,017	37,097	14.1%	61.6%	24.3%
07 中央南部	5,949	27,546	10,165	43,660	13.6%	63.1%	23.3%
08 河西北部	3,104	13,261	6,405	22,770	13.6%	58.2%	28.1%
09 河西南部	3,234	13,656	6,926	23,816	13.6%	57.3%	29.1%
10 四賀	308	2,296	1,907	4,511	6.8%	50.9%	42.3%
11 安曇	116	819	601	1,536	7.6%	53.3%	39.1%
12 奈川	39	314	342	695	5.6%	45.2%	49.2%
13 梓川	2,021	7,322	3,413	12,756	15.8%	57.4%	26.8%
14 波田	2,182	9,046	4,523	15,751	13.9%	57.4%	28.7%
合計	31,682	141,882	66,131	239,695	13.2%	59.2%	27.6%

資料：H30 都市構造可視化分析業務報告書（人口は H30 住民基本台帳）

図 年少人口の割合

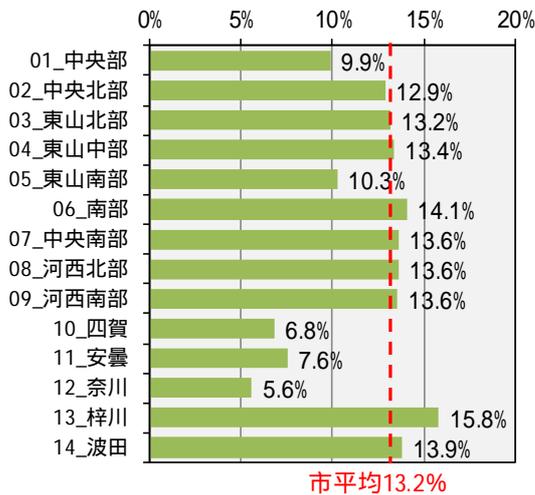
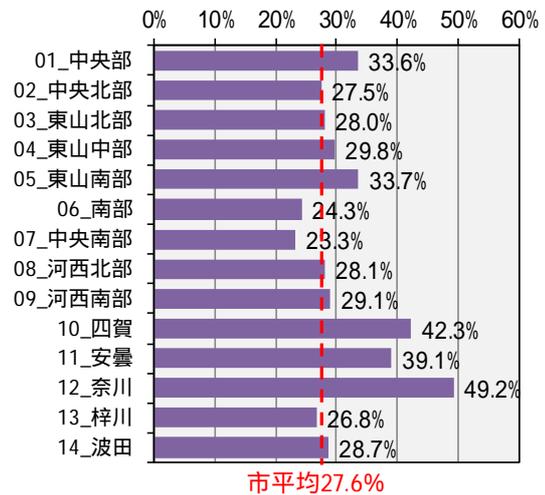


図 老年人口の割合



都市計画区域外では少子高齢化が顕著

都市計画区域外ほどではないが、中央部や東山南部でも少子高齢化が進んでいる

人口減少が進む中で、生活利便性の維持、コミュニティの維持が課題となっている

(2) 生活サービス水準

・買い物、公共交通、医療施設、通所系介護施設の徒歩圏人口の割合をみると、コンビニ・スーパーの本市の平均は70.1%であり、平均を下回るのは安曇・奈川0.0%、東山南部21.0%である。公共交通の本市の平均は49.2%であり、平均を下回るのは四賀・安曇・奈川・東山南部0.0%、梓川2.7%などである。医療施設の本市の平均は63.4%であり、平均を下回るのは奈川0.0%、四賀7.4%である。通所系介護施設の本市の平均は85.4%であり、平均を下回るのは安曇18.6%、東山南部24.3%である。

表 生活サービス施設のカバー人口・割合

地域	スーパー・コンビニ		公共交通(サービスレベル高)		医療施設		通所系介護施設	
	カバー人口	割合	カバー人口	割合	カバー人口	割合	カバー人口	割合
01_中央部	13,602	98.7%	13,158	95.4%	13,373	97.0%	13,787	100.0%
02_中央北部	20,633	92.8%	16,738	75.3%	19,972	89.8%	21,563	97.0%
03_東山北部	15,808	74.2%	5,508	25.8%	13,867	65.0%	18,851	88.4%
04_東山中部	5,158	36.8%	4,486	32.0%	7,707	55.0%	11,330	80.9%
05_東山南部	1,207	21.0%	0	0.0%	984	17.1%	1,397	24.3%
06_南部	30,062	81.0%	17,215	46.4%	28,455	76.7%	35,448	95.6%
07_中央南部	41,762	95.7%	25,859	59.2%	36,367	83.3%	42,208	96.7%
08_河西北部	12,829	56.3%	18,584	81.6%	10,358	45.5%	20,206	88.7%
09_河西南部	12,375	52.0%	2,720	11.4%	8,862	37.2%	18,023	75.7%
10_四賀	738	16.4%	0	0.0%	333	7.4%	2,010	44.6%
11_安曇	0	0.0%	0	0.0%	558	36.3%	286	18.6%
12_奈川	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	188	27.1%
13_梓川	4,871	38.2%	346	2.7%	4,417	34.6%	9,500	74.5%
14_波田	8,881	56.4%	13,253	84.1%	6,711	42.6%	9,874	62.7%
合計	167,926	70.1%	117,867	49.2%	151,964	63.4%	204,671	85.4%

資料: H30 都市構造可視化分析業務報告書

徒歩圏はスーパー・コンビニ、医療施設(内科を有する病院及び診療所)が500m、公共交通が駅1km、平日1日片道平均本数が30本以上のバス停留所300m、通所系介護施設(デイサービス)が1km

図 スーパー・コンビニのカバー人口の割合

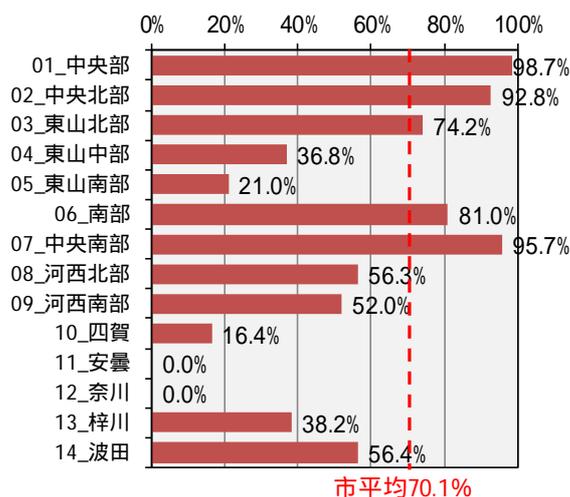


図 公共交通のカバー人口の割合

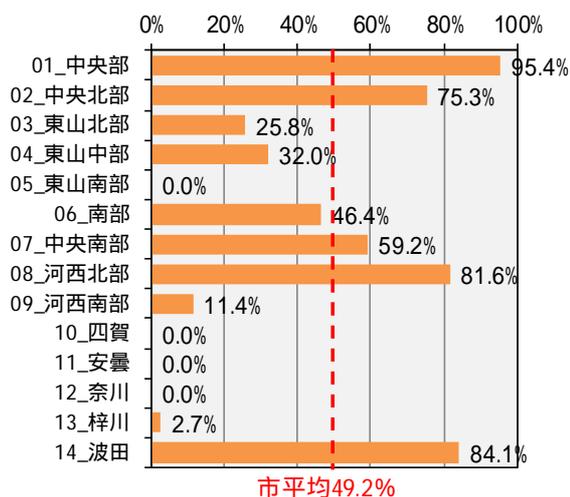


図 医療施設のカバー人口の割合

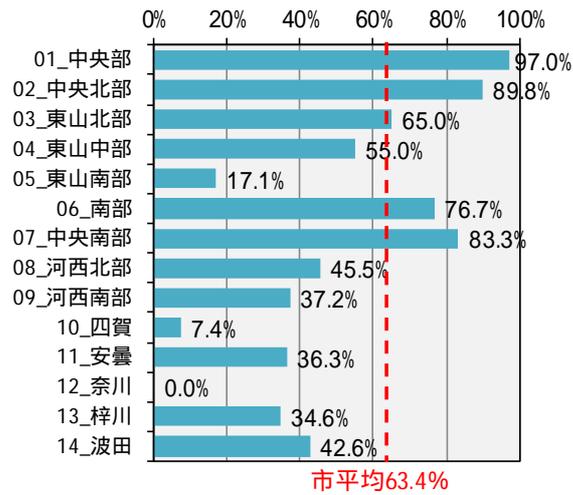
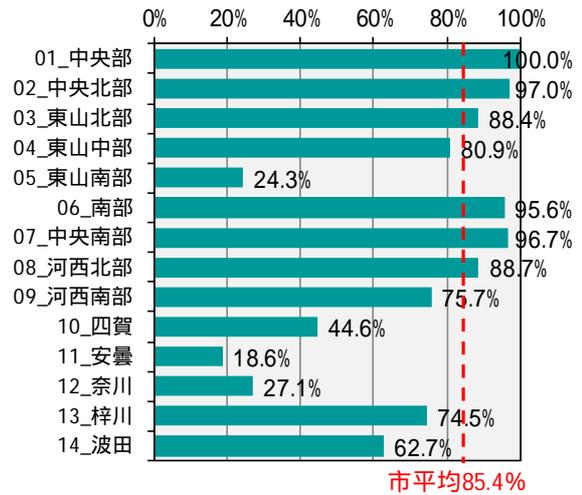


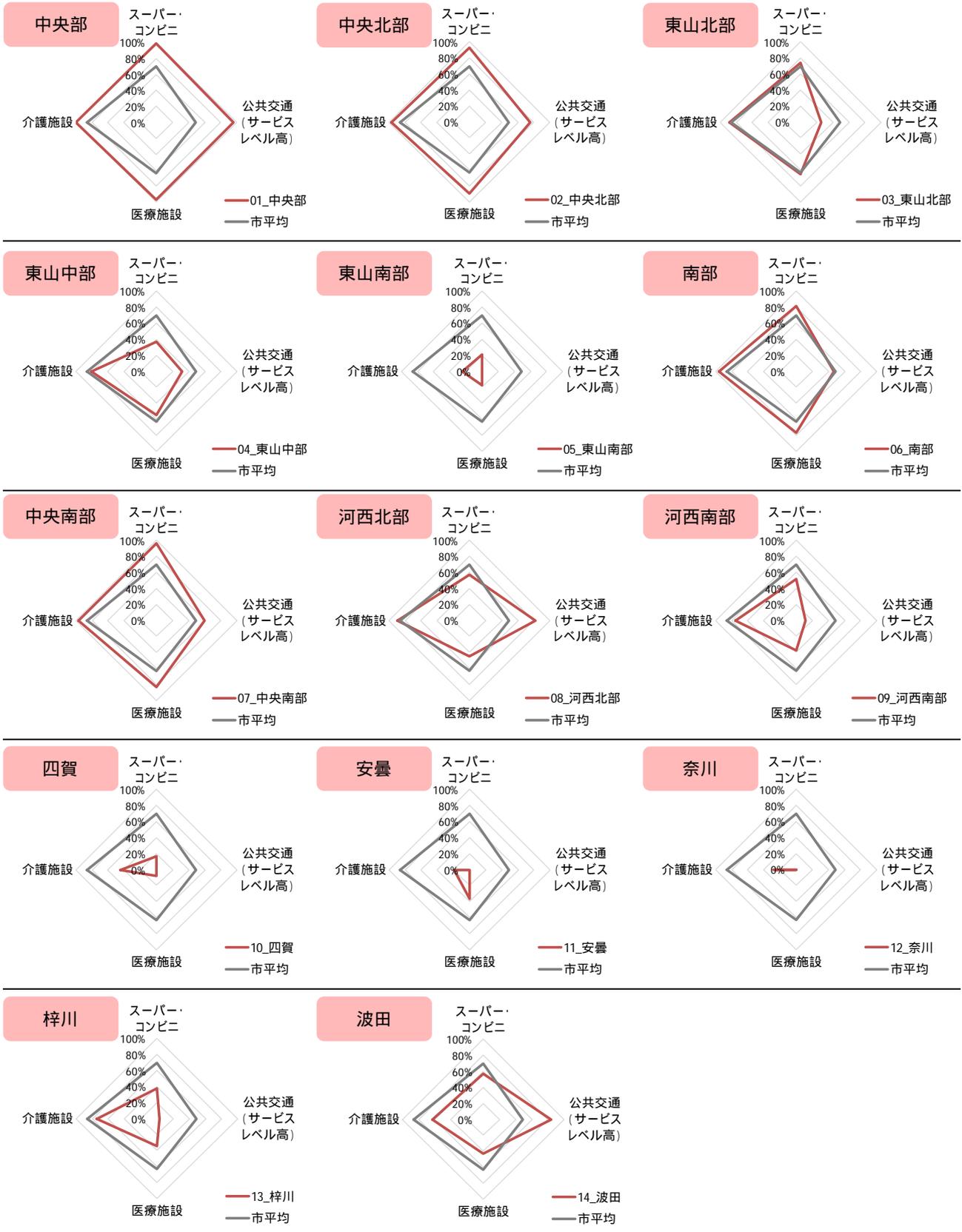
図 通所系介護施設のカバー人口の割合



都市計画区域外、東山（特に南部）の山間部、梓川では全般的に割合が低い

高齢者の運転免許が進む中で、生活サービスをどのように受けるのが課題となっている

図 地域別のカバー人口割合



(3) 災害

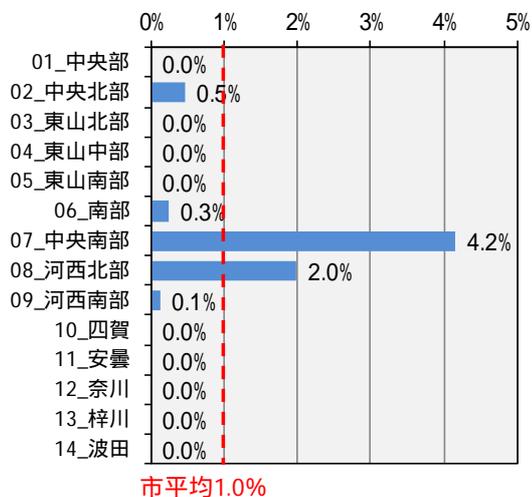
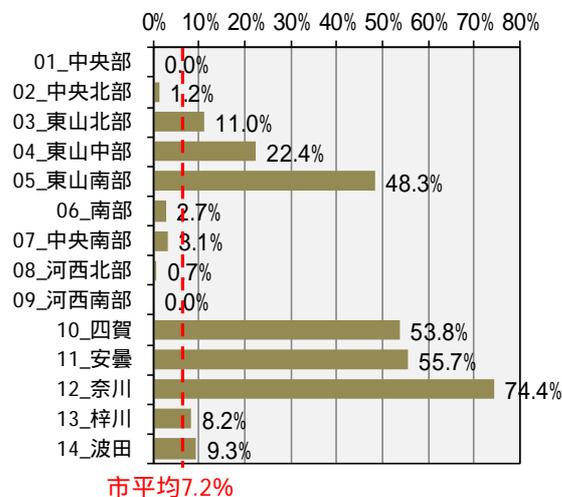
- ・土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の居住人口が地域の総人口に占める割合をみると、本市の平均は7.2%であり、平均を上回るのは奈川 74.4%、安曇 55.7%などとなっている。
- ・同じく、浸水想定区域のうち、浸水深 2 m以上の区域の居住人口の割合をみると、本市の平均は 1.0% であり、平均を上回るのは中央南部 4.2%、河西北部 2.0%である。

表 ハザードエリア内の人口・割合

地域	土砂災害警戒区域・特別警戒区域		浸水想定区域(浸水深2m以上)	
	区域内人口	割合	区域内人口	割合
01 中央部	0	0.0%	0	0.0%
02 中央北部	256	1.2%	104	0.5%
03 東山北部	2,355	11.0%	0	0.0%
04 東山中部	3,133	22.4%	0	0.0%
05 東山南部	2,782	48.3%	0	0.0%
06 南部	989	2.7%	93	0.3%
07 中央南部	1,337	3.1%	1,816	4.2%
08 河西北部	150	0.7%	453	2.0%
09 河西南部	0	0.0%	30	0.1%
10 四賀	2,428	53.8%	0	0.0%
11 安曇	855	55.7%	0	0.0%
12 奈川	517	74.4%	0	0.0%
13 梓川	1,052	8.2%	0	0.0%
14 波田	1,459	9.3%	0	0.0%
合計	17,313	7.2%	2,496	1.0%

資料: H30 都市構造可視化分析業務報告書

図 土砂災害警戒区域・特別警戒区域の人口割合 図 浸水想定区域(2m以上)の人口割合



土砂災害警戒区域における居住人口は、都市計画区域外、東山の山間部において割合が高い
 浸水想定区域における居住人口は、中央南部の割合が高い

土砂災害、浸水が想定されている区域では、一定程度の災害を防ぐ整備を進めつつ、災害が発生した時に安全に避難できるように、避難所、避難路の確保やソフト対策を進めるとともに、新たな住宅等の立地を制限する必要がある

(4) 空き家

- ・ 空き家の棟数をみると、中央北部が最も多く 388 棟、次いで中央部 326 棟、中央南部 297 棟の順となっている。人口 100 人当たりの空き家棟数をみると、本市の平均は 1.2 棟であり、平均を上回っているのは都市計画区域外の安曇 11.2 棟、奈川 9.4 棟、四賀 4.1 棟の順であり、更に中央部 2.4 棟、中央北部 1.7 棟など、中心市街地のあたりでも多い。
- ・ 空き家が多い地域では、利活用の更なる促進を進めるとともに、危険なものは撤去を進める必要がある。

表 想定空き家の棟数・割合

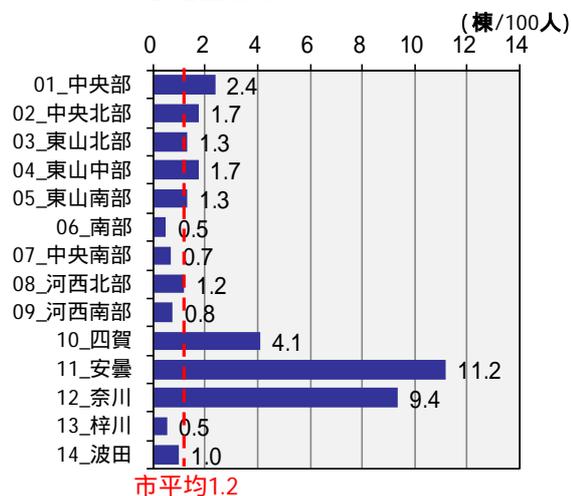
地域	空き家棟数	H30人口100人当たり棟数
01_中央部	326	2.4
02_中央北部	388	1.7
03_東山北部	280	1.3
04_東山中部	242	1.7
05_東山南部	75	1.3
06_南部	187	0.5
07_中央南部	297	0.7
08_河西北部	271	1.2
09_河西南部	181	0.8
10_四賀	185	4.1
11_安曇	172	11.2
12_奈川	65	9.4
13_梓川	68	0.5
14_波田	157	1.0
合計	2,894	1.2

資料：H30 松本市空き家データベース整備及び分析業務報告書

図 想定空き家棟数



図 想定空き家棟数の割合



市内全域で空き家は発生している

空き家が多い地域では、利活用の更なる促進を進めるとともに、危険なものは撤去を進める必要がある